

平成19年度学術創成研究費 事後評価結果

研究課題名	ミトコンドリアDNA突然変異導入モデルマウスを用いた病態発症機構の解明	研究代表者名	林 純一
-------	-------------------------------------	--------	------

※該当箇所（ ）に○等の印を付け、意見を記入してください。

1 研究計画、目的の達成度について

当初の研究計画、目的に照らし、採択時以降の関連分野の学術動向を踏まえた上で、その達成の度合いはどうか。

- ア（ ） 予定以上に達成した
- イ（○） 概ね予定どおり達成した
- ウ（ ） 一部不十分である
- エ（ ） 達成していない

意見：
テーマが広範におよんでおり、テーマ毎に成果の達成度にばらつきがみられる。学術創成という意味では全体を貫く突出した成果が欲しかった。

2 当該学問分野及び関連学問分野への貢献度について

当該学問分野及び関連学問分野における研究の発展に関し、貢献の度合いはどうか。

- ア（ ） 十分に貢献できた
- イ（○） 概ね貢献できた
- ウ（ ） 一部貢献できた
- エ（ ） 貢献できていない

意見：
ミトコンドリア病の発症のしくみに関して部分的な新たな知見を得たこと、ミトマウスの作製が進んだことなどは評価され、今後、関連学問分野への貢献が期待される。

3 研究成果について

(1) 学術創成研究費の趣旨及び当初の研究計画、目的に照らし、学術創成研究費としての意義ある成果をあげたか。(又はあげつつあるか。)

- ア（ ） 非常に高く評価できる
- イ（○） 概ね高く評価できる
- ウ（ ） 一部高く評価できる
- エ（ ） 高く評価できない

意見：
当初の研究計画、目的が広範だったが、部分的には国際的にも高く評価される成果が得られた。

(2) 研究成果の普及性、波及性はどうか。また、研究成果の積極的な公表に努めているか。

- ア () 非常に高く評価できる
- イ (○) 概ね高く評価できる
- ウ () 一部高く評価できる
- エ () 高く評価できない

意見：
発表論文数は必ずしも多いと言えないが積極的に成果の公表、普及に努めたと評価できる。さらに一般性のある成果が得られ、より一般的な学術雑誌に発表され他分野への波及効果があると良かった。

4 研究課題の総合的な評価

該当欄		評価結果
	A+	期待以上の進展があった
○	A	期待どおり進展した
	B	期待したほどではなかったが、一応の進展があった
	C	十分な進展があったとは言い難い

総合的な評価意見：

中間評価では必ずしも高くない評価であったが、後半でミトマウスの作製、ミトコンドリアDNAの遺伝的特性であるボトルネック効果の原因の究明などの独創性が高く、今後の発展が期待される大きな成果が得られたことは意義深い。

なお、当初の研究テーマが広範であった事もあり、テーマ毎に成果の達成度にばらつきがみられた。また、学術創成研究という意味では全体を貫く突出した成果が欲しかった。